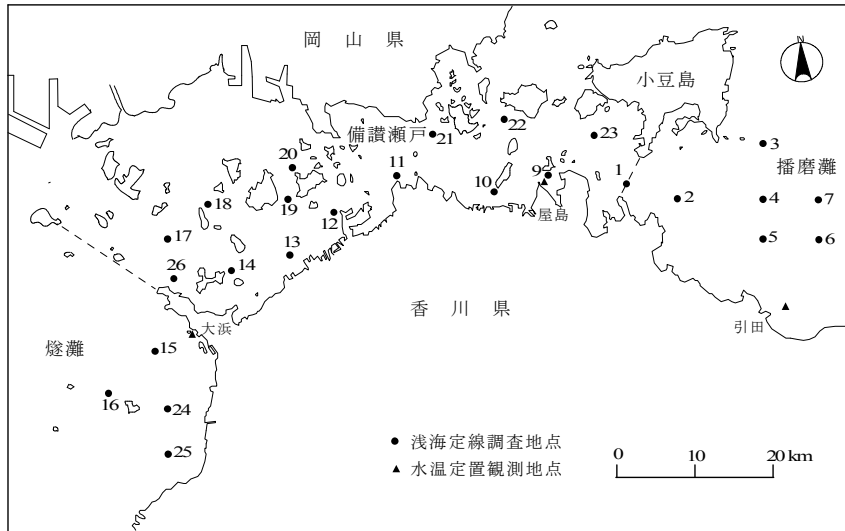


# 香川県漁海況速報 平成 21 年 8 月 (H21-5 号)

香川県水産試験場

## 1. 海況

### 1) 観測地点



### 2) 浅海定線調査

#### (1) 調査日

平成 21 年 8 月 5 日 (播磨灘), 4 日 (備讃瀬戸, 燧灘)

#### (2) 水質概況

平年と比較すると、水温及び塩分は「やや低めからかなり高め」、透明度は「平年並みから著しく高め」、溶存酸素は「やや低めからかなり高め」であった。

8 月

		水 温 (°C)			塩 分 (PSU)			透 明 度 (m)	溶 存 酸 素 (ml/l)	
		表層	10m層	底層	表層	10m層	底層		表層	底層
播 磨 灘	7地点平均値	26.0	24.6	21.8	32.2	32.3	32.6	12.0	4.64	3.72
	平年値	25.5	24.2	22.3	31.5	31.6	31.9	7.9	4.99	3.25
	平年偏差	0.5	0.4	-0.5	0.7	0.7	0.7	4.1	-0.35	0.47
	標準偏差(σ)	1.3	0.7	0.8	0.6	0.5	0.4	2.1	0.49	0.60
	状 況	平年並み	平年並み	やや低め	やや高め	かなり高め	かなり高め	かなり高め	やや低め	やや高め
備 讃 瀬 戸	14地点平均値	25.1	24.6	24.2	32.2	32.4	32.5	5.3	4.54	4.17
	平年値	25.2	24.6	24.3	31.6	31.6	31.7	4.8	4.42	4.10
	平年偏差	-0.2	0.0	-0.1	0.6	0.7	0.8	0.5	0.12	0.07
	標準偏差(σ)	1.0	0.9	0.8	0.6	0.6	0.6	1.3	0.38	0.38
	状 況	平年並み	平年並み	平年並み	やや高め	やや高め	かなり高め	平年並み	平年並み	平年並み
燧 灘	4地点平均値	27.4	23.2	21.9	32.2	32.8	33.2	16.3	4.55	4.28
	平年値	27.5	23.8	21.7	31.7	32.0	32.3	10.1	5.01	3.17
	平年偏差	-0.2	-0.6	0.2	0.5	0.7	0.9	6.2	-0.46	1.11
	標準偏差(σ)	1.7	0.9	0.9	1.0	0.6	0.5	2.1	0.47	0.72
	状 況	平年並み	やや低め	平年並み	平年並み	かなり高め	かなり高め	著しく高め	やや低め	かなり高め

平年偏差 = 平均値 - 平年値

平年値の算出期間

水温、塩分及び透明度：昭和 48 年 (1973) 1 月～平成 13 年 (2002) 12 月

溶 存 酸 素：昭和 48 年 (1973) 2 月～平成 13 年 (2002) 12 月

水温は、毎月 1 日の値に補正。

平年並み  $0\sigma \leq \text{平年偏差} < 0.6\sigma$  ( $\sigma$  : 標準偏差)

やや高め (やや低め)  $0.6\sigma \leq \text{平年偏差} < 1.3\sigma$

かなり高め (かなり低め)  $1.3\sigma \leq \text{平年偏差} < 2.0\sigma$

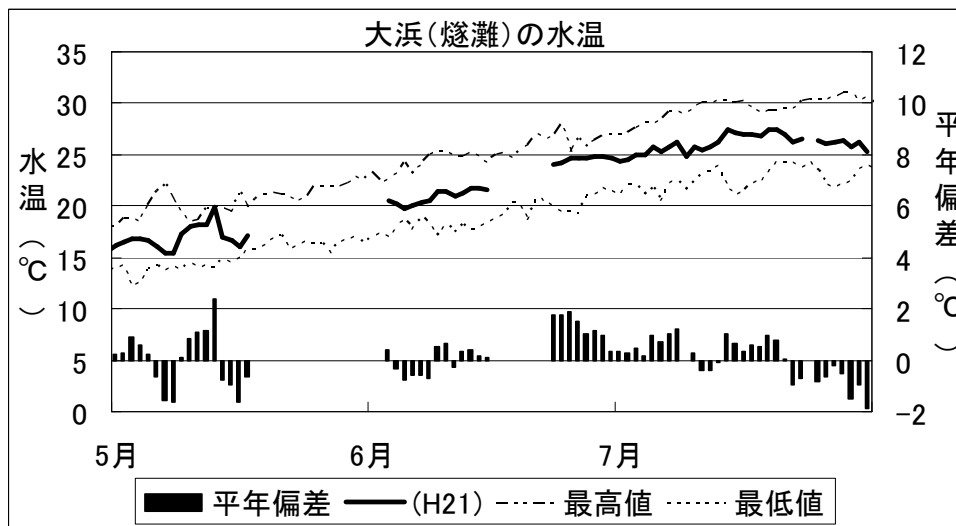
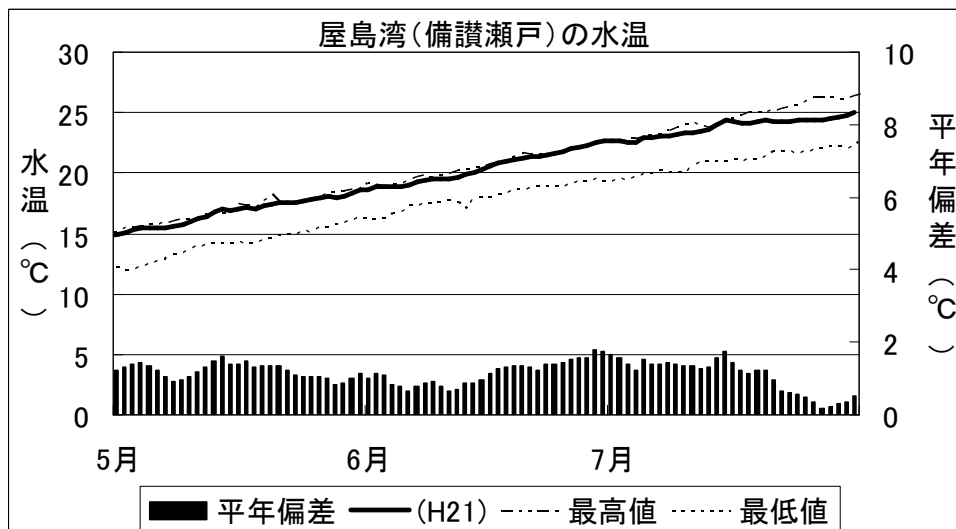
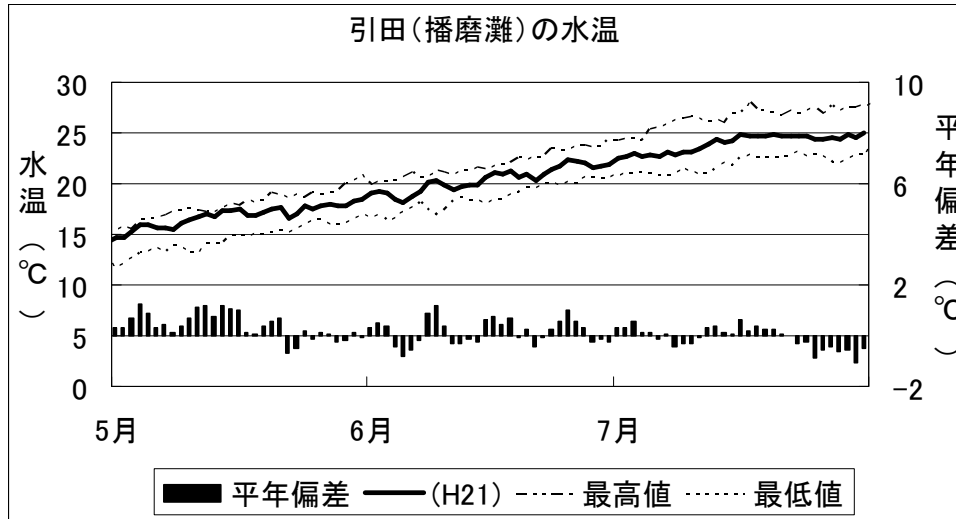
著しく高め (著しく低め)  $2.0\sigma \leq \text{平年偏差}$

### 3) 定置観測 (水温)

播磨灘 (引田) : 5月中旬までやや高めで推移していたが、その後、概ね平年並みで推移している。  
 備讃瀬戸 (屋島) : 4月以降著しく高めで推移していたが、7月中旬以降はやや高めで推移している。

燧灘 (大浜) : 5月中旬以降、概ね平年並みからやや低めで推移している。

平年値の算出期間 引田及び大浜 : 平成元 (1989) ~平成 20 (2008) 年  
 屋島 : 昭和 50 (1975) ~平成 20 (2008) 年



**4) 赤潮 (7月18日～8月25日)**

播磨灘：8月18日から21日に、志度港内においてペリディニウムによる赤潮が確認された。  
 備讃瀬戸：7月29日に屋島湾において、ヘテロシグマによる赤潮が確認された。  
 燧灘：発生なし。

**5) 卵稚仔**

調査日：平成21年8月5日 (播磨灘), 4日 (備讃瀬戸, 燧灘)  
 出現量

		カタクチイワシ		マイワシ		その他の魚類	
		卵	稚仔	卵	稚仔	卵	稚仔
播磨灘	平均値	18.9	0.4	0.0	0.0	5.3	4.0
	平年値	41.5	5.5	0.0	0.0		
	対平年(%)	45	7	-	-		
備讃瀬戸	平均値	0.7	2.7	0.0	0.0	4.7	7.7
	平年値	2.8	0.6	0.0	0.0		
	対平年(%)	26	460	-	-		
燧灘	平均値	0.0	1.6	0.0	0.0	0.4	6.7
	平年値	14.7	2.6	0.0	0.0		
	対平年(%)	0	60	-	-		
総平均	平均値	5.4	1.8	0.0	0.0	3.9	6.5
	平年値	23.2	4.7	0.0	0.0		
	対平年(%)	23	38	-	-		

—：平年値が0の場合を示す。(その他の魚類については平年値がない。)

平年値の算出期間

カタクチイワシ：昭和55年(1980)～平成20年(2008)年度

マイワシ：平成5年(1993)～平成20年(2008)年度

各調査点でのカタクチイワシ卵の出現状況は、次のとおりである。



## 2. 漁況

7月からの漁況は次のとおりである。

海 域	漁 況
播 磨 灘	<p>底びき網では主に、小型エビ類、イボダイ、マダコ、ガザミ等が漁獲されている。</p> <p>大型定置網では主に、サゴシ、マルアジ、サバ、タチウオ、イボダイが漁獲されているが、全般的に低調である。</p> <p>東讃のしらす船びき網の7月の漁獲量は、約150トンで好漁であった前年よりやや少ない。</p>
備 讃 瀬 戸	<p>底びき網では、主にウシノシタ類、メイタガレイ、マアナゴ、マダイ、小型エビ類、マダコ、ガザミが漁獲されている。</p> <p>まながつお流しさし網は前年同様不漁である。</p>
燧 灘	<p>底びき網では主に、アカカマス、シロギス、メイタガレイ、マアナゴ、マダイ(小)、小型エビ類、マダコが漁獲されている。</p> <p>桁網ではマルアジ、マダイ、スズキ、マボラ、キジハタが漁獲されている。</p> <p>いわし機船船びき網の8月中旬までの漁獲量はカエリ、小羽、大羽主体で約8,400トン、前年の約150%であった。</p>